人が集まる空間づくり

提　　言　　書

**平成２８年１０月**

**人が集まる空間づくり検討会**

目次

■はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

■現状と課題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

■検討内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

1. 目的
2. 検討会委員
3. 会議
4. 会議経過　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
5. 人が集まる空間とは

　　　　・なぜ人は集まるのか？　・・・・・・・・・・・・・・・・　５

・空間のコンセプトとなる５つの柱

・“人が集まる空間”に必要な５つの機能 ・・・・・・・・・　６

・大口発！空間と交流のしくみ　・・・・・・・・・・・・・　７

■新たな大口の元気へ！　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８

資料

人が集まる空間づくり検討会名簿

別添図１

　　別添図２

**■はじめに**

のどかな田園風景と心に潤いを与えてくれる五条川の桜並木、その苗木を植えた先人たちの積極的な工業誘致が実を結び、純農村時代の風景を残しながら、桜並木と企業の成長とともに大口町は発展してきました。

本町は愛知県の西北部、名古屋市より直線距離にして２０㎞圏内の位置にあり、東名・名神高速道路を結ぶ小牧インターチェンジに隣接し、国道４１号、１５５号が通る恵まれた交通環境を有しています。また、郊外型のスーパーマーケットが町内に４店舗点在し、農工商のバランスのとれたとても住み易いまちです。

人口は２万３千人余りの、東西約３.６㎞、南北約６.１㎞の総面積１３.６１㎢ のコンパクトで、互いの顔がわかるような小さな規模のまちですが、全国的には少子高齢化とそれに伴う人口減少が進行している中、本町では就職期にある１０歳代後半から２０歳代前半の独身者と、３０歳代の子育て世代の転入超過に伴う人口増加基調が現在も続いています。

町内には３つの自治組織が創設され、それぞれの地域の特性や課題に応じた住民主体の地域づくり、地域自治活動が盛んに進められています。さらに本町独自のＮＰＯ団体登録制度を創設し、ＮＰＯ団体の発掘・育成と活動支援も積極的に行っています。

地域やＮＰＯ団体、企業、行政など、まちづくりの多様な担い手による協働・連携を通じ、「みんなで進める自立と共助のまちづくり」を基本理念に掲げて、活力ある大口の未来を切り拓くための取り組みを行っています。

今後は「元気なまち　おおぐち」を継続し、未来を担う子どもたちにより良い「おおぐち」を引き継ぐためには、いま若い世代が住みたい・住み続けたいと思う魅力的なまちづくりを総合的かつ戦略的に展開する必要があります。

『このまちに住む人たちは、いま何を求めているのか？　何が足りないのか？』

人が集まる空間づくり検討会では、幅広い世代が交流できる“人が集まる空間づくり”をコンセプトに議論を重ねた結果、人が集まり、交流することで生まれる熱気が、大口町をさらに元気で魅力的なまちにすると考え、ここに提言書を提出します。

平成２８年１０月１３日

人が集まる空間づくり検討会

**■現状と課題**

人口の増加基調が続いている本町ですが、一部には急速な高齢化の進む地域があります。現在のところ地域活動に積極的な住民が多く、支え合い・助け合いのモデル的な地域となっていますが、今後さらなる高齢化が進むことを考えると、今の地域活動を継続・活性化して、さらに全町的に広めておく必要があります。

平成２６年～２７年に実施された各種アンケート調査で、多くの住民から「気軽に交流できる場所がない」、子育て中のお母さんからは「小さな子どもを連れて遊べる場所がない」、高齢者の方からは「時間があるがやることがない」などの意見がありました。

また、平日の夕方や休日には多くの子どもたちが健康文化センターの１階ロビーや中央公民館で勉強する姿が見られ、本来の学習スペースではない場所を利用する子どもたちへの同情の声が聞こえてきます。

長年にわたり住民の知的欲求を満たし、生涯学習を支える最も身近な公共施設として、その役割を果たしてきた図書館も、近年の新しい図書館が「貸出し中心」から「滞在型」に移行する中、開館から３７年が経過し、現在の中央公民館３階の限られたスペースでは、「ゆったりとした憩いの時間を過ごす場」、「親子の触れ合いの場」、「人と人の交流の場」といった新たに求められる図書館の役割には、十分に応えることが難しい状況にあります。

第７次大口町総合計画（計画期間２０１６―２０２５）

●大口町の主要課題

1. 若い世代が選択的に暮らしていきたいと思うまちづくり
2. 超高齢社会の本格到来に備えた「健康寿命の延伸」につながる健やか長寿のまちづくり
3. 先人が培ったものづくり産業の豊かさと活力の維持・発展
4. 災害不安や犯罪不安等のない安全・安心な地域づくりの推進
5. 持続可能で将来世代に負担を残さない自立と協働の地域経営の推進

●まちづくり戦略

1. 若い世代の定住・子育て支援
2. 健やかな暮らしづくり
3. 活力ある産業づくり

**■検討内容**

**（１）目的**

幅広い世代の「ひと・モノ・情報・文化」が集い、交流し、賑わいが生まれる「元気なまちづくり」の象徴となる空間づくりを検討する。

**（2）検討会委員**

役場関係職員・有識者・子育て支援・福祉等の団体メンバー及び公募を含め、１０名程度とする。　＊公募に関しては、5月広報及びホームページで募集

**（３）会議**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 回数 | 開　催　日 | 内　　容 | 参加者 |
| 第１回 | ５月３０日（月） | ・自己紹介・ワークショップ「大口町に足りないモノ、いま欲しい場所、必要なしくみ」について | 人が集まる空間づくり検討委員 |
| 第２回 | ６月２０日（月） | ・第１回の振り返り・ワークショップ「新たに足りないもの」の追加２班に分かれ意見を出し合うグループ分けしたものに表題を付ける。 | 人が集まる空間づくり検討委員 |
| 第３回 | ７月５日（火） | ・第２回の振り返り・ワークショップ意見徴収カードについて報告２つの班の意見を一つにまとめる。 | 人が集まる空間づくり検討委員 |
| 第４回 | ７月１５日（金） | ・長野県塩尻市複合施設　えんぱーく視察 | 人が集まる空間づくり検討委員図書館協議会委員まちねっとスタッフ地域振興課職員 |
| 第５回 | ８月１８日（木） | ・視察の報告・ワークショップ多くの意見から、各個人で必要なモノを選択し、どのような視点で選んだのかについて発表 | 人が集まる空間づくり検討委員 |
| 第６回 | ９月５日（月） | ・項目の選考結果について・優先順位付けしたモノの整理・テーマごとの表題とコンセプトの確認について | 人が集まる空間づくり検討委員 |
| 第７回 | １０月３日（月） | ・提言書（案）について | 人が集まる空間づくり検討委員 |

**（４）会議経過**

**さあ！検討開始**

第１回に、委員がそれぞれ周りの人にも意見を聞いて持ち寄る。

大口町にいま「足りないモノ」「欲しい場所」「必要なしくみ」はなに？

　まずは、それぞれの想いを持ち寄る。

たくさんの夢や希望を出し合う。

**まだまだ**

**足りない**

委員の年齢層は様々。

それぞれの生活や活動の背景があるので、その環境の中でより多くの人の意見を聞いてもらう。

周りの人の意見を聞こう！

　自分の周りの人から１０件以上の意見を集める。

　意見を出し合った結果、全部で２０８個の項目が集

まった。

塩尻市の「えんぱーく」は、中心市街地活性化のために作られた、図書館、子育て支援センター、市民交流センター、協働オフィス、一般企業などが混在する複合施設

**どんな空間がいいんだろう**

イメージを膨らまそう！

　図書館を核として子育て支援、ビジネス支援、市民活動支援などの施設が融合し、相乗効果を生み、賑わう複合施設として有名な長野県塩尻市「えんぱーく」を視察。“大口町に欲しい！”と“無くてもいいかな？”をより具体的にイメージする。

**これは譲れない**

「あったらいいモノ」が全部そろうといいけど、現実は厳しい。本当に必要なモノは何か、それぞれが自分の立場で選択する。

絞り込み作業

たくさん出た意見に、委員それぞれが優先順位を付ける。

**「あったらいいな」をカタチに！**

実現に向けた、現実的な作業。

でも、「夢と希望」「人が集まる空間」というコンセプトは忘れずに。

本当に必要なモノは？

　優先順位で絞り込んだ項目ごとに意見交換を行い、

テーマやコンセプトを再確認する。

**（５）“人が集まる空間”とは**

**●なぜ人は集まるのか？**

検討会で大口町にいま「足りないモノ」「欲しい場所」「必要なしくみ」について意見を出し合ったところ、世代や家庭の状況、生活環境や趣味趣向によって、実に様々な208個のキーワードが出てきました。（別添図１）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 魅力あるまちづくり | 新しい産業 | 多目的ホール | 芝生 |
| 中学生のサポート | 広い町民活動センター | 中庭・屋根・水遊び場 |
| 情報の発信と交換ハード | 人にも地球にもやさしい施設ソフト人 | 静けさ |
| 大型遊具 | 市民ギャラリー | 地産地消 | 音 | 手工芸室 |
| 自然 | 森のような木陰 | 大口発！ | 情報の発信と交換 |
| 高齢者の活躍の場 | マルシェ系 | 公園 | 歴史 | プラネタリウム |
| 地元企業の協力とＰＲ | 滞在型の図書館 | ステージ |
| 学習スペース | 市民サロン | 体験 | 賑わい | 五条川**ｅｔｃ．** |

**●空間のコンセプトとなる５つの柱**

検討会では各委員が持ち寄った大口町にいま「足りないモノ」「欲しい場所」「必要なしくみ」の208個のキーワードを、「広場」「子育て」「人材活用」などの24の小グループに分類し、さらに「遊ぶ」「魅力あるまちづくり」「大口発！」「学び」「新しい図書館」「その他」の6つの大グループに分類しました。（別添図2）

このグループ分けの作業を進める中で、「結ぶ」「まちのＰＲ」「憩い」「楽しむ」「学ぶ」という“人が集まる空間”を支えるコンセプトとなる**「5つの柱」**が浮かび上がってきました。そして「５つの柱」を構成するたくさんのキーワードは、それぞれが単独ではなく、様々な繋がりを持っていることにも気づくことができました。

**空間に集まる人と人をつなぐ、コーディネートする**

**情報提供をする**

５つの柱

**結ぶ**

**まちのＰＲ**

**楽しむ**

**学ぶ**

**憩い**

人が集まる空間

**●“人が集まる空間”に必要な５つの機能**

　検討会では、“人が集まる空間”をより具体的なカタチにするために、２０８個のキーワードに優先順位を付け、絞り込みを行いました。その作業の中で、“人が集まる空間”を創り、活かすためには、「新しい図書館機能」「まちのコーディネート機能」「学習スペース・フリースペース」「子育て支援の場」「まちをＰＲする場」の５つの機能が有効であることがわかりました。

　■新しい図書館機能

図書館の役割は主に「学ぶ」ですが、滞在型の図書館は「憩い」「楽しむ」「結ぶ」の役割もこなし、図書館の集客力はこの施設の核になります。“人が集まる空間づくり”のコンセプトには、図書館は欠かすことのできないアイテムであり、滞在型の新しい図書館は、今後さらなる集客力を発揮し、より多くの役割を担うことが期待できます。

■まちのコーディネート機能

この機能は人と人、人と団体を「結ぶ」役割を果たすと共に、情報発信も担うため「まちのＰＲ」の役割もこなします。現在では地域振興課・町民活動センターが中心となって行われており、そのノウハウは“人が集まる空間づくり”の中で、重要な役割を担います。

　■学習スペース・フリースペース

住民のニーズは多種多様で、そのすべてに応えることは不可能です。そのため多目的に利用できるフリースペースは“人が集まる空間”には欠かせないアイテムで、５つの柱のすべての役割をこなします。また、多彩なイベントを開催できるため、リピーターの獲得能力に優れ、継続的に集客力を発揮します。

学習スペースには比較的若い世代が多く集まるため、今の大口町にはない、若い世代の「憩い」の場や、多世代間交流の「結び」の場としての役割が期待できます。

　■子育て支援の場

子育て支援の場は「遊び」「結ぶ」「憩い」の役割をこなします。町内には公園や児童センターがあり、子育て支援の活動も行われていますが、まだ十分ではないという意見も多いようです。“人が集まる空間”には、子どもを連れた親子が創り出す賑わいも重要な要素です。

　■まちをＰＲする場

地産地消に関連する物販所、大口町のことなら何でも聞けるインフォメーションセンターなど、イメージは「道（まち）の駅」です。「まちのＰＲ」はもちろん、人と大口町を「結ぶ」役割もこなします。

**●大口発！空間と交流のしくみ**

コンセプトとなる「５つの柱」や、新たな大口の元気を生み出す「５つの機能」を組み合わせ、検討会が提案する“人が集まる空間”のイメージを図にまとめました。

検討会で出されたキーワードの中には、「魅力あるまちづくり」「大口町をＰＲする」「五条川」「地元の食材」「町内企業の紹介」など、“大口町らしさ”を取り入れることへのこだわりが多く見られました。検討会ではそれを「大口発！」と表現し“人が集まる空間”の中心に置きました。

人が集まる空間と交流のしくみ

まちのPR

**・インフォメーションセンター**

**・広い町民活動センター**

**・多目的ホール**

**・賑わい朝市**

**・道の駅**

**・地元の食材を使った大人の集え**

**るカフェ＆レストランバー**

**・町内企業の紹介スペース**

**・市民ギャラリー**

**まちのコーディネート機能**

**・市民サロン、談話室**

**・広い町民活動センター**

**・産官民協働のまちづくり**

**・子育てママが気軽に集まれて情報交換できる場所**

結ぶ

**子育て支援の場**

楽しむ

**・中庭、屋根付き、水遊び**

**・芝生、ステージ**

**・五条川と親しむ**

**・自然がそのまま**

**・大型遊具のある**

**屋内施設**

大口発！

**まちをＰＲする場**

**・子どもたちが騒いでも気にならない音のゾーン**

**・森のような木陰で読書**

**・緑の空間づくりを基調にして、木漏れ日の下で過ごせる。**

**学習スペース・フリースペース**

**・知的好奇心を刺激する質と量**

**・静かに本を読むスペースとおしゃべりしてもいい「賑わい」のスペース**

**・親子で賑やかに本が読める場所**

**・学習室、静かに勉強できる場所**

**・図書館と歴史民俗資料館を併設して自然に歴史を学べる場所**

憩い

**新しい図書館機能**

学ぶ

新たな大口の元気

**■新たな大口の元気へ！**

“人が集まる空間づくり”は、単に“人が集まる空間”を創るだけでなく、そこに集まった人と人をつなげ、交流や仲間づくりのサポートをしたり、様々な情報を提供することも重要な役割です。

多くの人やモノ、情報がつながること・交流することで、賑わいの相乗効果が生まれ、「**新たな大口の元気」**を生み出すことが期待できます。検討会ではこれまでの検討結果を踏まえ、“人が集まる空間づくり”の実現に向けて、継続的・積極的な推進が必要であると考えます。

今後は、“人が集まる空間づくり”を「**新たな大口の元気」**につなげるために、より多くの人の意見を聞き、関連する団体や企業、行政と連携を取りながら、「５つの柱・５つの機能」をより具体化したパーツを作り、加除し、最も効果的な組み合わせを導き出す必要があります。

　■今後の必要な作業

・ 広報やホームページを利用して、より多くの人の意見を聞く。

・ 行政の児童・福祉・観光等の部署、高齢者等を対象とした支援団体を加えて、第２期検討会を発足し、人が集まる空間づくりを積極的に推進する。

・ ５つの柱・５つの機能を具体化し、パーツを作り、それぞれの関連を分析する。

* 具体化したパーツの優先順位を決める。
* 優先順位の高いパーツから組み立て、最も効果的な組み合わせを探しながら、パーツの加除を行う。
* 最も効果的な組み合わせを導き出す。

「５つの柱・５つの機能」を具体化し、加除し、最も効果的な組み合わせを導き出すためには、新しい施設を作るのか、既存の施設を利用するのか、土地の面積、周りの環境などが大きく影響します。

 “人が集まる空間づくり”の実現に向けての継続的・積極的な推進に加えて、新たな検討段階に進むために必要な方向性を示していただくことをお願いして、検討会からの提言といたします。